

# 農業技術センター普及指導部作物関係情報

## タイトル：水稻の生育状況（8月5日現在）について

発信日：平成 28 年 8 月 8 日

### 1 内 容

#### ・ キヌヒカリ

〈6月上旬植え〉

平年値（平成 18～27 年までの過去 10 年平均）と比べ、草丈は「やや高い」、茎数は「同等」、葉色は「同等」となっており、出穂期は「平年並み」と予想される。

〈6月中旬植え〉

平年値と比べ、草丈は「同等」、茎数は「やや少ない」、葉色は「同等」となっており、出穂期は「平年並み」と予想される。

#### ・ はるみ

〈6月上旬植え〉

キヌヒカリと比べ、草丈は「同等」、茎数は「多い」、葉色は「同等」となっており、出穂期は「ほぼ同じ」と予想される。

〈6月中旬植え〉

キヌヒカリと比べ、草丈は「やや高い」、茎数は「多い」、葉色は「同等」となっており、出穂期は「ほぼ同じ」と予想される。

#### ・ さとじまん

〈6月上旬植え〉

平年値と比べ、草丈は「同等」、茎数は「やや多い」、葉色は「同等」となっており、出穂期は「平年並み」と予想される。

〈6月中旬植え〉

平年値と比べ、草丈は「やや高い」、茎数は「やや多い」、葉色は「同等」となっており、出穂期は「平年並み」と予想される。

### 2 留意事項

今後の水稻の技術指導においては、次の点に留意して実施する。

#### (1) 1 か月予報

気象庁が8月4日に発表した1か月予報では、気温は「高い」、降水量は「平年並か多い」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みである。

#### (2) 水管理

出穂後 10 日までの期間は、水を切らさないように注意する。

出穂後 20 日間の日平均気温が 27℃を超えると乳白粒などの未熟粒の発生が多くなるので、**掛け流し**を行ない、水温を下げる。出穂 10 日後以降は、**間断かん水**を行って、根の活力維持を図り、品質低下を防ぐ。ただし、土壌は乾燥させすぎない。

### (3) 追肥

本年は、7月第5半旬は降水量が多かったものの、高温、多日照の傾向であり、追肥を十分に施用していない場合は、粒の充実不足を招き、細粒が増えると考えられる。

出穂前で、葉色が極端に落ちている場合は、これからでも追肥を施用することが望ましい。

### (4) 病害虫

#### ・斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生は平年並みと予想されている。カメムシ類は畦畔等の雑草で増殖しており、出穂期頃に畦畔除草すると、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、これからは実施しない。



写真1 ホソハリカメムシ

#### ・籾の褐変

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、籾枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が発生しやすい。常発地では、出穂期前に薬剤散布を行なう。



写真2 褐変症状

#### ・稲こうじ病

昨年、稲こうじ病が発生したほ場では、本年も発生する可能性があるので注意する。収穫後、調製段階において玄米の汚れの原因となるので、出穂期前に薬剤散布を行なう。

また、稲こうじ病の発生が見られたら、株ごと除去し、ほ場外で処分をする。



写真3 稲こうじ病

#### ・ツマグロヨコバイ

ツマグロヨコバイの発生が見られている。出穂期にツマグロヨコバイの排泄物で穂が黒く汚れる(すす病)ことがあるので、出穂前後に薬剤散布を行なう。



写真4 ツマグロヨコバイ成虫



写真5 すす病

- ・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

発生地域が拡大しており、拡大防止のために以下の対策を行なう。

○貝及びピンク色の卵（卵塊）を水田内、畦畔、水路周辺で確認したら、水に落とすのではなく、すべて潰す。 \*寄生虫に感染する可能性があるので素手で触らない。

○水田内への侵入・隣接水田への被害拡大を防ぐために、水口・水尻に6～9mm目合いの網を設置して捕殺する。

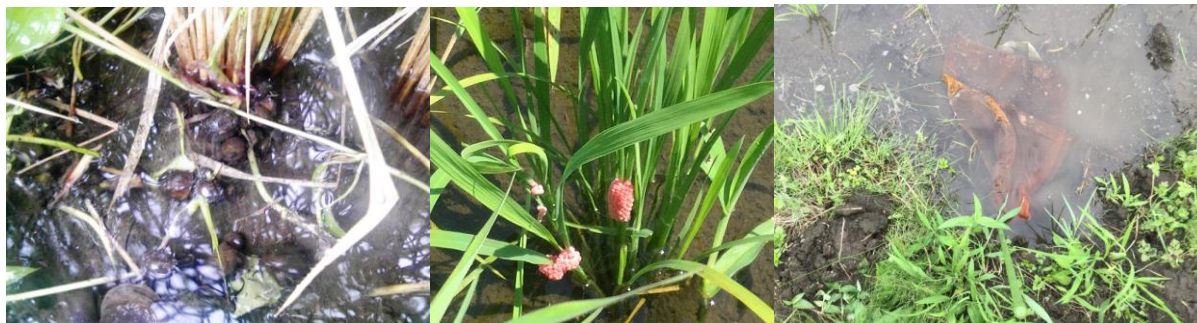


写真6 稲株元のスクミリンゴガイ

写真7 水稻に産み付けられた卵塊

写真8 水口へネットを設置した様子

※ 病害虫の発生状況等については、病害虫防除部の情報等に注意する。

#### (5) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効である。

なお、事故防止の観点から台風接近後における水田等の見回りについては、気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、大雨、強風が治まり、安全な状況になってから行なうこと。

##### ア 事前防止対策

- ・ 用排水路の詰まり等の点検、清掃を行ない、浸水、冠水時の速やかな排水に備える。
- ・ 深水湛水できるよう畦畔の整備を行ない、台風前は水田の水を深く張り、倒伏や急性萎凋を防ぐ。特に強い風を伴う台風は注意する。

##### イ 事後対策

- ・ 台風による損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保つ。
- ・ 浸水または冠水した場合は、速やかに水田から排水した後、新鮮な水で2～3回湛水と排水を繰り返す。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は、動噴等を利用して真水を散布し、洗い流す。
- ・ 急性萎凋すると穂（粃）や葉が黄変するが、これは水分バランスの崩れによる生理障害であり、追肥により回復することはないので、追肥は施用しない。
- ・ 台風通過後にウンカ類やコブノメイガ等の害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の情報等に注意する。

#### (6) 農作業安全

農作業中の熱中症を予防するため、日中の気温の高い時間帯を外して作業を行なうとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行なう。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をする。また、農作業中の落雷による事故を防止するため、水田で雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるときは、早く家屋や自動車等の安全な空間に避難する。

【参考】

◎農業技術センター（平塚市）における平年値（概ねの目安）

作期	品種名	水を切つてはいけない期間	平年出穂期	成熟期
5月下旬植	キヌヒカリ	7月19日～ 8月16日頃	8月6日	9月13日
	さとじまん	7月26日～ 8月23日頃	8月13日	9月25日
6月上旬植	キヌヒカリ	7月22日～ 8月19日頃	8月9日	9月18日
	はるみ*	7月23日～ 8月20日頃	8月10日	9月19日
	さとじまん	7月29日～ 8月26日頃	8月16日	9月28日
6月中旬植	キヌヒカリ	7月29日～ 8月26日頃	8月16日	9月27日
	はるみ**	7月29日～ 8月26日頃	8月16日	9月28日
	さとじまん	8月3日～ 8月31日頃	8月21日	10月5日

（注意）水稲の生育に関する平年は、平成18～27年のデータに基づく。

5月下旬植については、平成14～18年（5年平均）のデータに基づく。

\*；平成20～24、26、27年のデータに基づく。\*\*；平成21年～24、27年のデータに基づく。

連絡先

農業技術センター普及指導部作物加工課  
平塚市上吉沢1617

TEL：0463-58-0333 内線381～384

FAX：0463-58-4254